

# 人がやらないことやる！ ～人生も芸能界もアイデア勝負～

市瀬達弥

(高24回)

――高校時代の一番の思い出はなんですか？

それはもちろん、高松祭に吉田拓郎さんを呼んだことですよ。50年前、高松祭でのコンサートが終わってあと、僕の横には拓郎さんがいた。夜までギターを弾いて皆で一緒に歌つたことは忘れないね。ベトナム反戦運動や学生運動が盛り上がり、多くのフォーカシンガーが反戦歌をうたっていた時代。音楽鑑賞同好会で、井坪秀夫君、新井正彦君、岡山洋子さんらとグループを組んでいた僕も当然影響を受けていた。2時間半にわたるコンサートは大成功。ギャランティは3万円だった。「結婚しようよ」が大ヒットしたのは、その翌年ですよ。

## クラシック音楽と6年間書き続けた日記と

――どんな子ども時代だったのでしょうか？

歌をうたうのが大好きで、おしゃべり好きでね。家が

謝しているのは、1年から6年まで一日も欠かさず日記を書かされたこと。おかげで、文章を書くことは苦手でなくなった。小学5年の夏休みの自由研究で、クラシック音楽を聴いてそのイメージで物語を書いたの。いろいろなクラシックの曲から思い浮かべるストーリーを書いて提出したんだけど、そんなことをするのは僕くらいだったからね（笑）、たしか県展にも送られたのではなかつたかなあ。三男坊の強みで、兄達が叱られているのを見ているから、立ち回りもうまかった。兄達をいつも笑わせたり、友達の誕生会で落語を披露したり、とにかく、歌とおしゃべりが好きで、サービス精神が人一倍あつた子どもでしたよ。

飯田高校には1浪して入ったんです。大学に行くには飯田高校でないと、と思ったのでね。まさか、進学せずに上京して働き始めるなんて、そのときは考えてもみませんでした。高3の時に、雑誌を見て、サンミュージックプロダクションのオーディションを受けにいった。その日のオーディションで、僕は2曲うたって飯田へ帰つたんだけど、牧村美枝子さんがいて、彼女は6曲歌つたそうです。まもなく、サンミュージックの副社長から東京に来いと声がかかり、結局、大学受験をしないまま上京しちゃつたんですよ。



筆者（左）と早見優（右）と香坂みゆき（中央）と独立後、サンミュージックプロダクションのパーティー会場にて

● いちのせ・たつや  
「人生はアイデア勝負」  
がモットー。  
◎ 人生はアイデア勝負  
スマイリングを設立。  
マネージャーを務めた  
川陽介、桜田淳子らの  
ショーンで森田健作、太  
校卒業後、上京。サン  
ミュージックプロダク  
トで活動する。  
「人生はアイデア勝負」

労音（全国勤労者音楽協議会）に入っていたこともあって、来飯したミュージシャンは、ほとんど聴きにいつていたね。赤い鳥とかザ・スペイダースとかね。ソノシートレコードプレーヤーを買ってもらったのもその頃で、でも聴くのはクラシックばかりでした。

追手町小学校ではコーラス部に入ったんだけど、自慢できるのは、4年と6年のときには、毎日音楽コンクール合唱の部で全国1位になったこと。



小学4年生のとき、毎日音楽コンクール（全日本学生音楽コンクール）の部で全国1位になった仲間達（中段左から5番目が筆者）

## 上京して、サンミュージックへ入社

――歌手になるために特訓したのですか？

いや、最初の頃は、オーディションを受けたり、歌の勝ち抜き番組に出たりね。3週くらい勝ち抜くといいアルバイトになつた。NTV「スター誕生」には、出演者が急病になつたからと突然依頼されて出場して、リハーサルもなく、即本番。250点が合格ラインのところ239点獲得した。その報告のためサンミュージックに行つたとき、デビュー直前の桜田淳子さんを紹介されたんです。6歳年下の彼女を見たその瞬間、直感したね。「時代が変わる！」って。年齢もさることながら、オーラがあつた。芸能界は売れなければ意味はない。裏方に回つて、タレントを育てようと、その時思つたんです。

正式にサンミュージックの社員になつて、最初の仕事は、森田健作さんの付き人でした。TVドラマ「おれは男だ！」が大ヒットして、森田さんは俳優兼歌手として、テレビ出演と地方興行で超多忙な時期。僕は1時間かけて大きな日産プレジデントを運転して森田さんを迎えて行き、そこから1時間かけて仕事場へ。仕事が終わると同じように彼を送つて帰宅する。1日3時間の睡眠で、めちゃくちゃ働きました。この時、森田さんに教わつた

ことは「何があつても、言い訳はするな！」です。それから半年後、異例の早さでマネージャーに昇格しました。

### —他にマネージャーとして担当したタレントさんは？

2年後に担当したのが、太川陽介さん。マネージャーの仕事は、担当したタレントのスケジュール管理や宣伝活動だけれど、僕は、舞台の構成・作・演出も行っていた。

これは、サンミュージックでは最初で最後です。もともと、人を面白がらせること、他人と違うことをしたいと思っていたから、楽しくてね。太川さんの魅力を売り出していった結果、「Uui-Uui」が大ヒットして、その年の新人賞を総なめにしたときは本当に嬉しかった。

彼がNHKの音楽番組「レッツゴーヤング」の司会に抜擢され、そのうちに桜田淳子さんと他に4人も担当するようになると、充実した毎日が瞬く間に過ぎていった。松田聖子さんの担当を断つたのもこの頃。忙しくて他に手が回らなかつたことは事実だけれど、誰が担当しても売れると思ったからです。

### 独立して自分の城で勝負をかける

— 大手の芸能会社で順調にタレントを育てていて、なぜ、独立されたのですか？

自分のやりたいことができなくなってきたからかな。

事務所はアットホームなんですね。

ハワイ育ちの早見は、最初から感覚が違つていた。イエス＆ノーがはつきりしている。なぜこの振り付けなんか、なぜそうするのか、疑問に思つたことははつきり伝えて、納得すればきつちりやる子だった。堀越高等学校を卒業したら上智大学に進学したい、と忙しい仕事の合間を縫つて受験勉強をし、1浪して合格したときは立派だと思つたね。その頃から地球サミットに参加したり、国際交流活動に参加したりしていた。彼女をプロデュースして40年になるが、ボランティアに関する考え方も自然で、今後はより環境問題に取り組んでいくので、事務所としてもサポートしていきたいね。

### 芸能界での生き延び方

#### — 最近の芸能界についてはどうですか？

芸能界もずいぶん変わってきた。大人の金儲け、ご都合主義で作られた素人のグループタレントがたくさん出てきたでしょう。國ぐるみでタレントを育成している韓国の芸能界のレベルとは格段の差がついてしまつたと感じている。百恵さん、聖子さん、明菜さんがいたような時代、一般人から憧れられる世界を作つていかないと、このままでは駄目になつてしまふと思う。

ハワイ育ちの15歳の早見優を担当し、他にタレント5人、部下が10人になると、次第に隅々まで目が行き届かなくなることを実感し始めたんです。達成感が遠のいていくんだよね。僕は、自分でアイデアを出してプロデュースする現場の仕事が好きなのに、それができない。初心に戻つて新人を育てたいという思いが強くなつていつた。

独立したのは1997年4月21日。新しい芸能事務所の社名は、「スママイリング」までは決めていたんだけど、たまたま直前にハワイに行つた際、早見の友人が、レストランを「キープスママイリング」で予約してくれていた。響きもいいし、それで行こう！と即決。その年、ちょうど高校の25周年の同期会があつて、弁護士も会計士もその時集まつた同期生に頼んだんですよ。

### 一所属タレントは早見優さんと香坂みゆきさんが中心ですね。

うん、あと数人の新人タレント。早見と香坂とは長い付き合いです。特に早見は彼女自身の進学から結婚、出産、肉親との別れまであらゆることに立ち会つてきたから、まるで家族のよう。だから、芸能界にあつては驚かれるかもしれないけれど、彼女たちとの間に契約書は存続しません。信頼関係で成り立つてゐるからね。自然体で何でもできる香坂と勉強好きな早見は仲もいい。僕の

僕はね、相撲で言えば前頭、小結くらいがちょうどいいと思つて。特に浮き沈みの激しい芸能界では、横綱、大関になつてしまふと失敗すると後がないしね。大きな波をかぶらず、荒海の中を生き延びていく方法を僕なりに模索してきて今があるんです。もちろん、タレントの才能を見極める眼は必要。だけど、何より企画してプロデュースするのが僕の仕事であり、それが自己表現だと思ってやつてきました。今は息子が一緒にやつていますが、こればかりは感性の問題。教えることではないですからね。

### 市瀬さんには 今、感謝しかありません

社長なのに、現場が大好きで、時間

があればずーっとしゃべつて周りを笑わせてくれるムードメーカーです。一方で、真面目で厳しい。

実は私、一度も褒められたことがないんです。褒めて伸ばすより、褒めて天狗にならないようについて考えるタイプ。だから、最近ようやく「どうだった?」「うんうん」と言つてくれると、それだけでめっちゃ嬉しいです。厳しく温かい。それが市瀬さんですね。プロデュース力もすごい。次々とどこからあのアイデアが出てくるのかつて思う。40年、親よりも長い時間、側で見守つてきてくれて、本当に感謝しています。(早見優)